

別府市地域公共交通計画（2022.6～2027.9）

本市は、市民をはじめ、国内外からの観光客、留学生など、多様な文化が共生する広域的な拠点都市であり、都市を支える公共交通サービスは、通学通勤、通院や買い物、観光・ビジネス客の移動などに必要な大切な財産です。しかし、自家用車で生活行動・観光行動の定着、ライフスタイル・ニーズの多様化、コロナ禍での経営環境悪化などにより存続が難しくなっており、本計画を通じて多様な関係者との連携を強化し、誰もが便利で快適に移動できる持続可能な公共交通の実現に向けた取組を推進します。

まちが目指す将来像・公共交通が果たすべき役割

将来像 誰もが便利で快適に移動できる持続可能な公共交通の実現

都市計画との調和

持続可能なまちづくりの実現

- 日常生活が便利で安全・快適に暮らせるコンパクトなまち
- 地域生活拠点・観光拠点などの特色ある拠点の形成、誘導
- 拠点を中心とした都市機能・居住の誘導、ネットワーク形成

公共交通の役割

- 市内外の広域的な人の交流の促進を図る役割
- 居住・都市機能の集積を誘引する利便性の高いサービスの役割
- 多様な移動ニーズに対応して中心市街地の賑わいを支える役割
- 誰もが安心して快適に生活できる居住環境を支える役割
- 国内外の多様な来訪者ニーズに応じた円滑な移動を支える役割
- 自家用車利用を中心とする市民の意識・行動の転換を促す役割

公共交通を取り巻く現状と課題

地域の特性

- 1) 人口減少・超高齢社会への対応
 - 市街地部の高齢化・人口減少の進展、中山間地域の生活利便性の低下
 - 高齢者総数の減少見込み、身体能力の落ちる高齢者等の使いやすさに配慮したサービスの確保
- 2) 社会動態・開発動向に応じた変化
 - 居住地・生活サービス施設が集積する市中央部の生活環境の整備・充実
- 3) 社会動態・開発動向に応じた変化
 - 社会減の抑制（本市への転入を促進する生活環境の充実）、新たな文化拠点の整備に応じた対応

市民の特性・ニーズ

- 4) 公共交通を使って暮らす習慣の促進（自家用車への依存度が高い市民）
 - 市民の自家用車利用率の軽減、免許返納の支援、公共交通を使って暮らす習慣の定着 など
- 5) 他者に頼らざるを得ない交通弱者の存在
 - 自らの移動手段を持たない高齢者・子どもの移動環境の確保（公共交通が不便な地域の改善）
- 6) 居住地毎の生活行動に対応するサービスの改善
 - 中心市街地へのアクセス確保、生活行動（目的地等）に応じた経由地や乗り入れ等の改善
- 7) 市民が求める乗り継ぎ利便性の確保（観光客共通）
 - ニーズの高い乗継利便性の向上（利用者に見える形での改善）、列車⇄バスのすれ違い解消など

観光の特性

- 8) 観光アクセスを支える提供サービスの持続
 - コロナ禍の影響を受けている観光業の回復を支える観光アクセスの持続
 - 国内外の観光客に利用しやすいサービス・情報案内の充実、広域的な観光行動への対応
- 9) 観光客等に届くわかりやすい情報案内の充実
 - 利用を敬遠する原因や利用する際の不安などを払拭するための情報案内の充実

サービスの持続性

- 10) 公共交通サービスの利用減少の抑制
 - コロナ禍による利用減少の抑制・利用回復に向けた利用促進や利便性の向上
- 11) 利用が低迷するエリア・路線の解消
 - 利用者が少ない・バスでの対応が難しいエリア、輸送人員が不十分な路線の解消（路線存続策）
- 12) 公共交通の維持に向けた収支の改善
 - 慢性化する収支赤字の軽減（コロナ禍の減収回復）、提供サービスに見合う利用・収益の改善
- 13) 提供サービス水準の適正化（非効率区間の解消）
 - 路線・ダイヤが重なるサービス非効率区間の改善（行政関与による重複区間の時分調整など）

関係者連携など

- 14) 地域から求められる市民連携への対応
 - 市民ニーズに挙げられる「市民連携」を実行していくための仕組みづくり
- 15) 関係者との連携の促進
 - 市民・関係部局・施設などとの連携を通じた利用促進の仕組みづくり（付加価値の創出）
- 16) 社会情勢や経営環境に配慮した取組の推進
 - 行政・事業者の連携強化、厳しい経営状況や人員不足等に配慮した事業・共通負担の軽減 など

基本的な方針

多様な関係者との連携強化を通じた持続可能な公共交通サービスの構築

人口減少社会の進展やライフスタイルの変化などにより市民・来訪者の移動ニーズが多様化するとともに、民間経営で支えられる本市の公共交通サービスは人員不足や車両の老朽化、近年の利用減少等の問題に直面して厳しい経営環境に見舞われています。本計画は、将来にわたって市民や来訪者に必要とされるサービスを確保・維持するため、別府市、交通事業者、国・県、関係市町、市民をはじめとする多様な地域関係者が関与し、まちづくりと調和した持続可能な公共交通サービスの実現を目指して取り組むことを基本的な方針とします。

- 公共交通相互の連携・役割分担
- “まちづくり”と調和した公共交通ネットワークの確保
- “地域全体”で支えるための多様な関係者との連携
- 多様な輸送資源の組合せ（リソースの確保）

将来の公共交通ネットワーク

拠点形成

- 中心市街地
- 文化拠点
- 地域生活拠点
- 観光拠点

ネットワーク

- 幹線交通（鉄道）
- 幹線交通（フェリー）
- 幹線交通（バス）
- 幹線交通（長距離バス）
- 市内バス路線
- 地域コミュニティ交通



計画の目標・目標達成のための事業（2022.6～2027.9）

計画の目標

目標1 利用しやすく持続可能な市内ネットワークの最適化

市民・来訪者の移動しやすい環境の実現に向けて、行政・交通事業者の連携強化に取り組みとともに、生活圏や観光圏の多様な移動ニーズに応じた市内ネットワークの最適化を図り、市内バス路線・地域コミュニティ交通（タクシー、乗合タクシー等）の利用者数の回復、持続性の向上を目指します。

- ▶ 指標1 市内バス路線の**輸送人員の回復**を図ります
- ▶ 指標2 タクシーの**輸送人員の回復**を図ります
- ▶ 指標3 地域コミュニティ交通の**持続性の向上**を目指します

目標2 市民・来訪者が利用しやすい利用環境の充実

市民や国内外から訪れる来訪者など、誰もが使いやすい公共交通環境の実現に向けて、待ち時間を過ごしやすい待合環境や情報案内・誘導、ユニバーサルデザイン車両等の充実を進め、使う人の視点から利用環境の充実を図る取組を目指します。

- ▶ 指標1 利用者に見える形での**交通結節機能の強化**を目指します
- ▶ 指標2 主要な拠点の**利用しやすい環境の充実**を目指します

目標3 多様な移動ニーズに対応した幹線交通の持続・活性化

通勤や通学、買い物、通院、観光・ビジネスといった多様な目的で利用され、地域間の移動・交流を促進する重要な機能を果たしている幹線交通は、公共交通モード間・広域自治体間の連携による取組を進め、コロナ禍で急減した利用者数の回復・持続性の向上を目指します。

- ▶ 指標1 鉄道駅・フェリーの**輸送人員の回復**を図ります
- ▶ 指標2 幹線バスの**輸送人員の回復**を図ります

目標4 多様な関係者との連携を通じた利用促進・情報提供の充実

市民をはじめ、商業・医療・観光等の沿線施設、他分野の関係団体・部署、各交通事業者、行政などの多様な関係者と連携し、移動やお出かけ先での楽しみを含めた利用促進・情報提供を多彩に進め、市民や来訪者が公共交通を使って自由に移動するまちの実現を目指します。

- ▶ 指標1 使う人の視点から**情報を入手しやすい環境の充実**を目指します
- ▶ 指標2 **公共交通利用率の向上・連携する関係者の拡大**を目指します

目標を達成するための事業

①段階的な市内バス路線再編の推進

- **市内バス路線等のモニタリング・分析**
 - コロナ禍の収束に向けたモニタリング、利用回復の状況に関する継続的な分析
- **アフターコロナに合わせた市内バス路線網の再編**
 - アフターコロナの需要に応じた路線網の最適化、
 - 需要・ニーズに応じた補助路線の見直し など

②地域コミュニティ交通の維持・充実

- **多様なニーズに対応するタクシーの持続・利用促進**
 - 細やかなサービスに対応するタクシーの利用促進
- **市民協働による地域コミュニティ交通の支援**
 - 乗合タクシーの利用促進・改善、市民協働による地域コミュニティ交通の取組の推進

- **新モビリティ・ICT技術等の活用及び検証**
 - 便利で快適に移動できる公共交通の実現に向けた新技術活用の調査・研究の推進
- **行政・交通事業者の連携強化**
 - 公共交通専門ワーキング等を通じた行政・交通事業者の連携強化（体制の整備）

- **共生社会を支える移動しやすい環境の整備**
 - 高齢者や心身障がい者にとっても自由に移動しやすい環境への支援
- **行政・交通事業者の連携強化**
 - 交通事業者との密接な連携による取組の推進

③幹線交通と接続する交通結節機能の強化

- **交通結節点における待合環境・情報案内の充実**
 - 幹線交通と接続する交通結節点の待合環境、情報提供・誘導などの交通結節機能を強化

④主要な乗り場・車両等の環境整備

- **主要拠点（モビリティハブ）の環境整備**
 - 市内の地域生活拠点や観光拠点の待合環境、情報案内・誘導の充実、乗継利便性の向上

- **周辺施設・コンビニ等と連携した待合環境改善**
 - 沿線施設と連携したバス停環境の充実
- **ユニバーサルデザインの推進**
 - 誰もが利用しやすい乗り場・車両等の整備促進

⑤幹線交通の提供サービスの持続・利便性向上

- **大分県中部圏で連携した一体的な路線維持**
 - 大分県が主体となって圏域内3市・交通事業者が連携しながら幹線交通の取組を推進

- **利用者ニーズに応じた待合環境の改善**
 - 一部ニーズのある交通結節点の機能向上
- **公共交通モード間の乗継利便性の向上**
 - 異なる公共交通モード間の乗継利便性の向上

⑥利用者の目に触れる機会を増やす情報発信・PRの充実

- **市民・来訪者への情報発信・PR**
 - 多様なコミュニケーションツールでの情報発信の充実、運転手の募集活動に関する発信

- **利用者目線による情報提供の充実**
 - わかりやすいアプリ等の活用促進、宿泊先や学校等の情報を入手しやすい拠点の充実

⑦多様な関係者との連携の促進

- **大規模イベント時の利用促進**
 - 市内イベントに合わせた誘導・パーク&ライドなど
- **各ターゲット層への情報提供・利用促進**
 - 転入者・免許返納者などに向けた仕組みづくり

- **来訪者・市民の利用のきっかけをつくる利用促進**
 - 付加価値を付けた公共交通の市内散策プラン
- **関係部局・団体等と連携した調査・改善**
 - 観光・福祉団体等と連携したサービス改善調査